

令和7年度

小・中学生フォーラム in 余丁町小学校



新宿区では、毎年、小・中学生と区長が意見を交換する「小・中学生フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、子どもたちの意見を区の施策の参考にするとともに、子ども自身が新宿のまちに関心と愛着を持ち、区政に積極的に参加することを目的とするものです。

10月28日（火）、余丁町小学校（若松町13-1、校長：佐藤郁子）の5年1組28名、2組29名が「今、『食』が抱える課題とそれに対して新宿区ではどんなことができるのか」をテーマに、吉住健一区長と意見交換をしました。

上記のテーマのもと、児童たちは12のグループに分かれて、東京で農業を活性化させるための消費拡大に向けた提案や、食品ロスを減らすために誰もが実行できる、「必要な分だけ買う」などの取組や区政への提案、お米の生産量と消費量を増やすための工夫、区内で野菜栽培を活性化させるための屋上農園の提案など、新宿区の「食」を取り巻く現状と課題について調べ、たくさんの提案を区長に行いました。

区長からは、児童たちの提案について、実現できるかどうか検討していきたいと話しました。また、区長自身の生活を振り返って、「手前どり」など実際に行っており、そうしたことをみんながやっていたら、食品ロスは減っていくなどの話があり、児童たちにも引き続き発信してほしいと伝えました。

私たちが生きていく上で欠かすことのできない大切な「食」について考え、発信する良いきっかけとなる有意義なフォーラムとなりました。

